

エコたま グリーン NEWS



多摩市民環境会議機関紙 第143号(通巻第203号)
2015年2月5日発行 発行人:清水武志朗 編集人:
井上ひさかず 〒206-0025 多摩市永山 3-9 東永山
複合施設 301 (事務局員は常駐していません)
e-mail qqh43tdd@train.ocn.ne.jp
URL www.ecomeetingtama.jp

環境学習セミナー最終回

持続可能なまちにするために！



今期の環境学習セミナーの最終回が2月1日午後、市立グリーンライブセンターで開かれた。参加者は15名。

諏訪2丁目に13年に竣工したマンション群 全員が3回以上出席の修了生で、阿部裕行市長の公務の都合上、午後1時より先に修了式が行われ、修了証を阿部市長自らの手で交付した。

講座のテーマは「多摩市を持続性あるまちにするには」。講師は諏訪2丁目にある Brillia 多摩ニュータウン団地管理組合の加藤輝雄理事長。氏は同団地の建替え組合の理事長でもあった。

ここで、多摩ニュータウンの誕生から現在までを簡単に振り返ってみよう。

高度経済成長期にあった首都圏の住民の住戸を確保



べく、国は1965年に「新住宅市街地開発事業」を決定。現在の多摩市、八王子市、稲城市、町田市にまたがる面積約3万ha、東西14km、南北

1~23棟の分譲団地だった旧諏訪2丁目 3kmの多摩丘陵に人口約34万人のベッドタウンを造成するという大規模な構想だった。事業主体は日本住宅公団(現UR都市機構)、東京都、住宅供給公社だった。

それから6年後の1971年に諏訪、永山地区の入居が始まり、各地区の団地がつつぎにオープンしていったわけである。当時、諏訪団地は1182戸、永山団地は1508戸だった。2001年にURが新規分譲事業を停止。やがて2006年にニュータウン地域から撤退する。

諏訪2丁目団地(分譲)では入居後、20年ほどから講演する加藤理事長



建替え問題を話し合う有志の会ができ、隔週で話し合いの場を持った。きっかけは面積48.85㎡という1戸の狭さだった。そして全住戸5階建て

の階段室型でエレベーターなし。駅からの動線にも長い階段がありバリアフリーも考慮されていない。

最初は増築を検討したものの、建物の老朽化、インフラ設備の更新が困難なこと、耐震性への不安、バリアフリーが実現できない、エレベーターの設置にも多額の費用がかかる、修繕による維持の限界、階下への水漏れ、音漏れの問題、住民の高齢化、空き部屋の増加、スラム化の進行などにより、築後約40年になる2010年3月に92%の住民の賛成をもって建替え決議が行われた。

課題は高齢化への対応。耐震、防災面の充実。個人負担の軽減など。目標はだれもが安心して住み続けるために、高齢者、経済的弱者も参加可能にすることだった。すでに工事が始まっていたこの1年後に、東日本大震災が起こるわけだ。

こうして敷地総面積64,400㎡の「日本最大の建替え事業」といわれた建替えは2013年10月末に竣工した。11階建てと14階建ての7棟で総戸数1249戸と旧住戸からほぼ倍増した。住戸面積は43㎡~100㎡まで。旧住民は新築マンションに同面積の部屋に入居なら追加購入費は不要だが、以前より面積の多い部屋を選べばその分の追加支払いが必要となる仕組み。

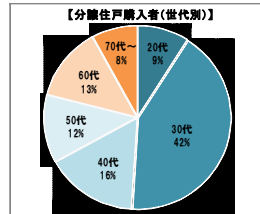
この間、建ぺい率10%、容積率50%とされてきた「都市計画一団地の制限」は、多摩市、東京 昨年1月のまちびらき都などと旧建設省(現国土交通省)に陳情を重ね、建ぺい率20%、容積率150%になったり、優良建築物への補助金制度などが実現したことで構想が成就。

分譲住戸購入者の年齢構成と移転先は、分譲住戸(684戸)購入者のうち半数は30歳代以下であり、まちの若返りが図られた。他方で、60歳以上の購入者も2割程度いる。居住地別購入者は4分の3以上は多摩市外からの転入者であり、市の人口増加に寄与している。ちなみに多摩市内とそれ以外の多摩地区からがともに24%、神奈川県からが22%、八王子・稲城・町田からが16%、東京23区からが14%だった。

加藤理事長の話のあとは、参加者たちが3つのブロックに分かれ、「持続可能なまちにするために自分たちに何ができるか」をテーマにしたワークショップが開かれ、おもに市政に対する注文や、「こうしたらいいのでは！」といったことが話し合われた。

聖ヶ丘の図書館を存続させて！

「聖ヶ丘図書館をなくさないで！」と声を上げた聖ヶ丘地区の住民たちが1月31日、阿部裕行市長と3人の市職員を呼んで対話集会を開いた。ご存知のように、多摩市では平成35年末までに「公共施設の見直し方針と行動プログラム」によって、現在7カ所ある市内の





会場のひじり館ホールは満員

図書館を本館（多摩センター）、永山、関戸（聖蹟桜ヶ丘）の3館に削減しようとしている。

まず市の資料から、今後の市の図書館に対する具体的な取り組みをチェックしてみよう。

図書館サービスの充実・向上を図るため、現在の7館から本館と駅に近く比較的規模の大きな拠点館2館の計3館に集約し、開館時間の延長等サービスを拡大しつつ、効率的な運営を図ります。その他の4館については廃止しますが、図書館資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能をコミュニティセンターや学校図書館に設置し、機能を補完していきます。なお、本館については、集約に伴い図書館の中核機能及び収蔵能力を高めるため、多摩センター周辺へ移転し、再整備します。

ということで、東寺方、豊ヶ丘、唐木田、聖ヶ丘の4館は閉館の対象になってしまった。

これに対して、聖ヶ丘地区の住民は昨年11月にも市の職員（担当部長、課長、図書館長）を呼んで反対集会を開き（140名参加）、今回が2度目の市との直接対話になる。今回の参加者は前回は上回る147名だった。

始めに「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」の厚芝麗子代表代りが、4300名超の反対署名簿を渡し、会からの発言を行った。

「市のプログラムに対する住民との合意なしでは進めない」という市長の言葉があり、市長に直接訴えることにした。わたしの知人で「歩いて行けるところに図書館がある」といって引っ越してきた人が何人もいる。そんな世代間交流の場にもなる図書館がなくなってしまったら、その人たちは何のために引っ越してきたのかということになる、と語った。

これに対し阿部市長は、図書館が大切な場所であることはわかっている。存続してほしいという声も聞いている。子どもたちの未来を危うくさせることはない。自分は文字・活字文化を大切にしようと活動してきた人間だ。ただ、地域の公共施設を今後どう維持していくのか。

これからの日本は少子化、高齢化を迎える。持続可能な町にしていくにはどうしたらいいか。コミセンそのものがどう発展していったらいいか。医療分野、福祉などの拠点をコミセンのなかにつくっていかなければならないのではないか。どうしたら過度な借金をせずに維持していけるのか。市議会でも図書館に対する事業評価をしている。借金をせずに町を維持していくには、いまのままではむずかしいのが実情だ、と話した。

また担当部署の佐藤課長は、多摩ニュータウンの公共施設は高度経済成長と人口増とともに開発されてきた。それが40年、50年と経てきてこのまま使い続けられるのか、という時代になった。人口はほぼ横ばいだが、高齢化が進み、生産人口が減っている。施設の半分ちょっとが30年たっている。あと10年もすると8割ぐらいになってしまう。安全に使い続けるには、どういう形で使っていけるのか。「賢く

←ひじり館の図書館



縮む」を目指していきたい、と訴えた。

これに対して、市民からは「図書館を直営ではなく、民間委託にしたらどうなのか、考えているのか」とか「こういうところが地域の活性化の中心になっている」、「既存の7カ所を有効利用しなければ、地域サービスの低下につながる」などの意見が相次いだ。

こうした意見に対して阿部市長は、図書館を民間委託にしたからといって、安くなるわけではない。メリットが出てくるかはむずかしい。地域包括ケアセンターがこの地域にないので、必要なサービスだと思っている。地域委員会をつくって進めていきたい。地域を維持していくために、今後ともみなさんと議論していきたい。みなさんが主人公の町だ、これで終わりではない、と応じた。

なお、この会には白田市議会議長を始め、各党派の市議も顔を出していたが、一人の市議は「消費税が3%上がった分の一部が多摩市に交付されるので、それを財源にすれば各地の図書館を閉鎖せずに存続することは可能のはず」と呼びかけ参加した住民にエールを送っていた。

さえずりの森で山始め式

1月18日(日)、晴れ、気温10度、参加者7名。本日は山始め。午前9時30分よりご神木のヤマザクラの前に使用する道具を並べ、お神酒、米、塩、御幣を捧げる。清水さんの指導により、2礼、2拍、1礼で1



ご神木のヤマザクラに向け祈念年の作業の安全をお願いします。

作業内容は、おもにカヤ刈りと落ち葉掃きです。バス通りに面した保護囲いのなかのススキ、ヨシが枯れてそのままになっていたもので、すっかり刈ってきれいに。すごい量の刈り込みをしがらみへと運ぶ。

つぎにモミジイチゴの保護囲いへと移動。ここも枯れ葉がいっぱい。なかなか手ごわくて苦闘。途中で休憩。ブルーシートに腰をおろしてほっと一息。暖かい日差しが心地よかった。山下さんから差し入れの鹿児島県産のポンカンをいただいた。



途中ではあったが、12時近くなり本日の作業はひとまず終了ということになった。(第162回保全報告より：写真・江川さん)

女性陣もお神酒を口に含む

第10回地域ふれあいフォーラムTAMA開催

10周年を迎えた<地域ふれあいフォーラムTAMA>は1月25日、関戸公民館で開かれた。午前10時、豪快な和太鼓の演奏で幕を開け、ふれあいひろば(市民ロビー)の出し物だけでも23種もあり、切れ目のない演技の連続に、4800人を数えた来場者はみな満足。↓まち美化コーナー

また、多摩市まち美化推進協議会や省エネ推進協議会などもここに出展したが、このうちまち美化のコーナーを訪れた人は336人だった。

